

財務分析システムを効果的に活用するポイントも押さえてよう

向井俊男

財務分析システム・コンサルタント

決算書を受け取った後、そのデータをシステムに入力して財務分析を行うことになる。ここでは、分析システムを正しく・効果的に活用するポイントを解説する。

多

多くの金融機関では、融資先から決算書を受け取った後、そのデータをコンピューター・システム（財務分析システムや格付システム、自己査定システムなど）で分析している。このコンピューターによる財務分析は、粉飾決算を見抜くなど、融資先の財務的な危険度を察知するためにだけ行うものではない。正しく分析すれば、一見、融資の実行が困難なように見えて実は融資可能な先を見出すことも可能なのだ。

以下、正しい分析を行うためのポイントを紹介する。

POINT 1

財務データを正しく入力する

科目の集約方法により結果がブレることを理解

財務分析システムで表示される貸借対照表（B/S）や損益計算書（P/L）は、決算書そのもの（原決算書）ではない。コンピューター・システムへの入力にあたり、原決算書の財務データは、それぞれのシステムが定める科目体系にまとめられる（集約される）からだ。

例えば、原決算書では「現金・50万円」「預金・100万円」となっているが、多くの分析システムの勘定科目は「現金・預金」となっており、「現金・預金・150万円」と入力することになる。そして財務分析システムでは、原決算書そのものの財務データではなく、こ

の集約されたデータに基づいて分析を行う。したがって、科目の集約の仕方によっては分析結果も異なってきてしまうのである。

安易に「その他」に入力しないよう注意する

「現金」と「預金」を「現金・預金」に集約するのは誰も間違えないであろうが、勘定科目によっては、どの科目に集約すべきか判断に迷うものも出てくる。まずは、その判断の仕方によって、または集約のミスによって、分析結果がブレてくるこ

とを認識しておこう。

よく分からない勘定科目は、「その他」勘定に入力（登録）してしまう場合もあるだろう。あるいは、どこにも紐付けようがない特殊な勘定科目が発生しており、「その他」勘定に入れるしかない——という場合もあるかもしれない。

しかし、こうした科目を安易に「その他」勘定に入力すること、例えば「その他流動資産」が急増すると、分析結果に狂いが生じることがある。システムによっては、その他流動資



産が急に膨らむと、不良債権の振替えとみなして、売上債権扱いにするものがある。

分析結果が出てきてから、前期と評点が大きく変わっている場合などには、なぜその評点になっっているのか、入力に問題はなかったかを見直すことも大切だ。

たかが「入力」と侮ってはいけない。財務データの入力は、財務分析の第一歩なのである。

そもそも計上された科目が正しいかを確認

では、財務データを正しく入力し、正しい分析結果を得るためには、どういった点に気をつけるべきかであろうか。以下に注意点を挙げる。

①未収入金の実態を確認する

財務データの入力は、ミスではなくとも、正しいとは限らない場合もある。例えば、原決算書に「未収入金」と計上されていても、実際に未収入金とは限

らないこともある。

日銭商売でもなければ多少なりとも売掛金はあるはずなのに、売掛金が「ゼロ」で未収入金には金額が入っている決算書が少なからずある。その決算書の未収入金は、おそらく実際には売掛金だろう。これを未収入金として登録するか、あるいは売掛金として登録するかで分析結果は変わってくる。

売掛金は、分析にあたり売上債権として扱われるが、未収入金はそうではない。未収入金の登録の仕方により、格付が1つ違う場合もあり得るのだ。

②割引手形や減価償却など、決算書の「脚注科目」をきちんと入力する

割引手形残高や減価償却累計額など、決算書の欄外に記載されている「脚注科目」の登録も、漏れやミスがあつてはいけない。漏れやミスがあると、分析結果に影響を与えることは言うまでもない。

割引手形は、売上債権や借入金として認識・処理されるものであり、正しくデータ登録をしないと、それらに関する指標値に狂いが生じる。減価償却は、

経常収支比率やキャッシュフロー分析で使用されるものである。そのデータに登録漏れやミスがあると、分析結果に大きな影響を与えかねない。

決算書のこうした数値も見落としてはならない。

妥当性を欠く分析結果は業種が原因の場合も

③商売替えをしていないか確認する

データの入力にあたっては、財務データだけでなく「業種の指定」も重要だ。財務分析システムや格付システムでは、業種別の分析が行われるため、業種の指定を間違えると、分析結果も間違つたものとなる。

例えば、清涼飲料水のメーカーが製造をやめ、卸だけを行う